

# 特集 定時制の課程70周年



昭和29年頃の夜の母校

母校定時制の課程は昨年、70周年を迎えた。コロナ禍がまだ終息していない状況であり、11月27日に行われた式典は教職員と在校生のみで行われ、祝賀会も中止となったが、本誌では改めてそのあゆみを振り返ると共に、卒業生から思い出を披露していただいた。

## 三丘同窓会定時制部会会長

4回生・森田正朝



母校70周年、心からお喜び申し上げ、感謝いたします。

私は1954年、4回生として入学、当時は敗戦後、生活のため昼間働きながら定時制高校で学ぶという生徒が多く、年齢差を超えて楽しく学生生活を過ごしました。

入学と同時に演劇部に入部、芝居を通じて人間の生きざまや社会のあり方について学び、その後の人生に大きな糧となりました。

また、授業が終わり帰路の途中、堺東の喫茶店で終電車まで、先生方と日本や世界の将来について話し合いました。働きながら学びあった定時制時代の思い出をこれからも大切にしたいと思います。

## 三丘定時制で学んで

6回生・森島嘉之



校舎には西側の門（現在の三丘同窓会館の前）から出入りした。ニセアカシア並木に沿った校舎の前を通るのに、なんとなく、誇らしい気分を味わった。重厚感漂うそのたたずまいをとても気に入っていた。

太陽の下で運動できないことを辛いと思ったことは一度もない。照度に不足を感じなかったし、元々泳ぎ以外は得意でなかったせいもあると思う。授業中に眠くなることもなく、夜学生生活は快適であった。入学した頃、定職に就いていなかった私は、定職を持つている同級生を素晴らしいと思い、早く自分の進む道を決めなければと思いつける日々であった。

母校卒業後、大阪外国語大学短期大学ロシア語科に進学。夜型人間として、8年間の夜学生生活を送ることになったが、三丘生としての4年間がその忍耐力を培ってくれたと信じているし、素敵な級友たちと先生方が支えであったことは間違いないと思いつている。（元財団法人大阪府公園協会職員）

## 企業の重役と交渉

7回生・奥野勝美



三丘丘高校時代は私の青春そのものでした。文化祭や弁論大会、球技大会、そして生徒会活動など様々な行事を通じてクラスメイトをはじめ多くの仲間との交流、その中でたくさんのことを学び、また失敗もしました。それが私の人生を豊かにし、他に得ることのできない貴重なものになりました。

一つ忘れられないのが「連協」（堺市定時制高等学校生徒連絡協議会）府立三丘丘高校定時制、府立堺工業高校定時制、堺市立第二工業高校、堺市立第二商業高校、以上4校加盟）についてです。

当初本校は「連協」に加盟していませんでした。「連協」の方から「三丘丘高校も加盟してほしい」とのお誘いがあり、生徒会の役員をしていた私は、生徒総会を開きみんなの意見を聞き、昭和34年に加盟を決めました。

## 一所懸命学んだ

11回生・西口泰夫



中卒で就職して実働助手をしていましたが、論理思考を基本とする技術者になろうと、3年目に昼は勤めたまま、夜工業の定時制に。しかし、自分の考える生き方をするには、大学院まで行く必要があると考え、2年目に進学に向いている普通科の三丘丘に編入しました。

卒業後、近畿大学理学部の2部に通いながら、昼は大府立工業高等専門学校に勤めました。その後大阪教育大学大学院修士課程に。これが中学校以来の昼の学校でした。それから計算機の先駆者であった日本計算機を経て、京セラに入

社。基礎技術開発、商品開発、事業開発まで行つて多くの新規事業を立ち上げ、社長就任後は新たな会社作りで6年間取り組み、非常に創造的な人生を送ることが出来ました。

同志社に入ったのは京セラの会長を終えてからです。実践の世界で30数年仕事をしてきましたので、「技術を活かす経営」を学問として研究すべく博士課程に。ドクターを取り、同志社のビジネススクールで客員教授をして、70歳でLSI会社を創業。大手企業2社から2000人以上のエンジニアに転職してもらいました。4年間会長兼CEOとして経営を行い、技術経営の基礎が作れたと考慮、退任しました。現在は経営コンサルタント、ベンチャー経営、イノベーションに関する研究にも携わっています。三丘丘では一所懸命学びました。近畿

## 教師を目指して勉強中

67回生・福岡千晶



せた高校生活は「青春」そのものでした。勉学に励み、クラブ活動や行事、10代の生徒たちや先生方との関わりを思う存分楽しみました。

大学2部も含めて8年間、昼の実験助手的な仕事実践的な勉強になりましたし、夜は高校、大学で学問として学びました。いい時間を過ごせました。今があるのもそのプロセスがあつたことです。後輩たちには、絶えず自身や、所属する組織を持つ課題を明確に捉え、その解決に創造的に取り組む、創造型人生を送ってほしいと思います。（元京セラ代表取締役会長兼CEO、現山田コンサルティンンググループ取締役会長）

夜の校舎で「また明日、バイバイ」と挨拶を交わした4年間は人生の財産になりました。その財産はとてつもなく大きな自信になり、進学への意思が固まりました。めざすものは特別支援学校の教員です。担任の先生に「支援学校の先生になったら？」と言われた時、高校入学を決意した時と同じような感覚がありました。それは、大きな目標を掲げたことへの不安を消し去ってくれたものでした。私はこれから2年間勉学に励み、定時制の先生方のように生徒に寄り添い、温かみのある教師になれるよう精進したいと思えます。（神戸教育短期大学在学中）

## 定時制課程のあゆみ

### ■創設の頃

#### 堺市内で初の普通科の定時制

三丘丘高校定時制の課程は1951（昭和26）年、堺市内で初めての普通科の定時制課程として誕生した。すでに堺市内には工業科、商業科の定時制はあったが、普通科の定時制はなかったため、当時の福島勝校長が創設に踏み切った。初代の定時制主事は中島国一氏。生徒募集のビラを自分で貼って歩いたという。1期生100名余りの卒業生のうち22名が大学に進み、卒業した。

#### 内田裕也さんも在籍

開設された年の9月15日には初の月見祭（文化祭）が開催される。当時は演劇が盛んな時代で盛り上がった。ロック歌手の内田裕也さんも一時期在籍、文化祭でギターを弾きながら歌ったそうだ。

#### 定時制同窓会が発足

1962（昭和37）年、定時制同窓会「三友会」が結成され、初代委員長（後の会長）に定3回・久郷修司さんが就任。1955（昭和30）年にできた生徒会会則も起草したという久郷さんは、20歳で入学、堺の検察庁（大阪地方検察庁堺支部）で事務員として勤務しながら通学、病気のため大学進学は諦めたが、後に副検事となった。2020年逝去。

#### 夜間照明も次第に整備

発足当時は電力事情が悪く、母校でもしばしば停電に悩まされ、職員室には太いローソクが常備されていたという。

やがて、1967（昭和42）年には運動場に、1973（昭和48）年にはプールに、1974（昭和49）年にはテニスコートに夜間照明設備が設置されるなど設備面での改善が進む。

### ■そして今

時代の変化に応じて教育課程における新しい試みも次々に導入されてきた。

1992（平成4）年4月、通信併修制を導入。3年間で卒業することもできるようになった。

2000（平成12）年4月、定時制で初めての「総合的な学習の時間」を実施。

2002（平成14）年4月には「0時間目授業」開始。

2005（平成17）年4月から2学期制、単位制導入。

2006（平成18）年5月からは「土曜講座」が開講された。

2007（平成19）年4月1日、副校長（翌年度から「准校長」に改称）が着任。現在の辻徹准校長は第6代にあたる。

そして、2021（令和3）年、創設70周年を迎える。（写真下は11月27日に行われた記念式典）

